平成２５年度
鳥取県議会中国訪問団
報告書

〔平成２５年１０月２７日（日）～３１日（木)〕

鳥取県議会

１　訪問日程及び訪問先

平成２５年１０月２７日（日）～３１日（木）

中華人民共和国

遼寧省大連市、吉林省長春市、黒竜江省ハルビン市

※　詳細は「４　日程表」のとおり

２　訪問団メンバー

団　長	小谷　　茂　議員			
副団長	伊藤　　保　議員			
秘書長	森岡　俊夫　議員			
＜随行＞	議会事務局	調　査　課	課長補佐	田中　義一
		議事・法務政策課	係　　長	中倉　秀将
	文化観光局	交流推進課	国際交流員	金　香蘭（キン　コウラン）

３　所感及び県政に対する提言

今回の県議会による中国訪問団は、吉林省、遼寧省、黒龍江省の中国東北三省を訪問した。その目的は、本県と20年近くにわたり友好交流を続けている吉林省との更なる交流の推進を確認すること、高い経済成長を持続している中国東北部に山形県が設置している海外事務所の現状を調査すること、及び漫画、アニメーションに関する教育を行っている学校を訪問し、中国における人材育成の状況を調査することであった。

中国では、昨年、大規模な暴動が起こり、日系企業が大きな被害を受けたことは記憶に新しい。また今年は韓国の朴槿恵大統領が、中国の習金平国家主席に対して、伊藤博文を暗殺した安重根の銅像をハルビン駅へ設置することを要望するなど、依然として一定の緊張感が存在する状態であることは否定できない。しかし、今回の訪問では、そのような国政レベルの問題の影響は全く感じられず、大変な歓迎を受けたことをまず、報告する。これは、単に日本と中国が経済的に大事なパートナーであるということだけではなく、平成５年から本県と吉林省が長年にわたり培ってきた絆が育ち、日本海だけでなく国政の壁を飛び越えた大きな架け橋となっていることを示す一つの証左であるものと認識する。

今回の訪問で、まず印象に残ったのは、スモッグにかすむ街並みと高層マンションの建築ラッシュ、街路にあふれる自動車である。中国に着陸する飛行機の窓から、スモッグに覆われた大連の街並みが見えたとき、訪問団全員が衝撃を受けた。そして、それは大連市だけではなく、内陸部の長春市内においても同様の状況であり、行き交う多数の自動車が黄砂状のホコリにまみれている様子は、中国の環境汚染の深刻さをうかがわせた。その一方で、訪問する先々には、必ずといっていいほど建設中の高層マンションの姿が目に入った。これらは投機目的のマンションがほとんどであると聞いたとき、経済成長の勢いと、環境汚染の深刻さ、加熱する不動産投機が併存する状況に、かつての日本の姿を重ね合わせずにはいられなかった。

中国東北部は、伝統的に重化学工業が発達し、とうもろこし等の穀物の生産地帯とし

て知られるなど農業地帯でもある。産業構造としては、全体的に鉄鋼、自動車、機械工業、農業、食品加工、石油化学、石炭のシェアが高くなっている。この地域の経済は高い成長率が続いており、その成長余力は、まだまだ充分にあるといえる。

また、この地域は、日本、韓国、ロシア、モンゴル、北朝鮮といった北東アジア諸国と近接する地域であり、内陸にある吉林省、黒龍江省にとって、日本海へ出る物流ルートの確保は、対外的な発展を図り、経済成長を支えていく上でも必要なものと考えられる。

今回は、まず遼寧省大連市で調査を行った。大連市は、約１，２００の日系企業が進出し、約６，０００人の日本人が住む都市である。遼寧省全体では対日輸出が約２５％、大連市では約４０％と、大きな割合を占めている。

まず最初に、平成３年に中国に進出し、ズワイガニの委託加工の推進で業績を拡大してきた、さんれいフーズの大連事務所を訪問した。さんれいフーズは、山陰地方を拠点とする企業であるが、中国においては、主にカナダから原材料を仕入れ、加工を行っているとのことであった。しかし、ここ３年くらいで、委託加工の形態から中国国内での販売を行う内販型への変化を進めているとのことであった。内販型ビジネスモデルへの転換については、今回訪問した日本貿易振興機構（JETRO、ジェトロ）でも同様の指摘が行われており、さんれいフーズに限らず、一般的な傾向のようであった。

一方、中国では従業員の離職率が高く３年周期で辞めていく傾向があるとのことであった。この背景には、賃金の問題もあるようだが、中国での事業展開を考えるときは、マニュアルで処理できる業務のほうが適しているとのことであった。

次に、現地に事務所を置き、日本企業と関わりながら活動している山陰合同銀行大連事務所と、ジェトロ大連事務所を訪問し、中国東北地方の経済状況等について説明を受けた。両者とも、中国での日本企業の進出の余地があるとの認識であり、今後の中国は、“一人っ子政策”に代表される少子化政策の影響により、近い将来、高齢化社会が到来することから、シルバー産業の需要が高まってくるとの見解で共通していた。

今後の中国との経済交流を探る上で、非常に多くの示唆を得ることができた。とくに従来の委託加工型のビジネスモデルから内販型のビジネスモデルへの転換やシルバービジネスについての指摘は、大変参考になるものと思う。

続いて、吉林省長春市を訪問した。１０月下旬でありながら、現地では、すでに雪が舞う季節となっていたが、表敬訪問した吉林省人民代表大会からは、心のこもった温かい歓迎を受けた。本県と吉林省が友好交流をはじめて来年で２０周年という節目の年を迎えるが、これまで積み重ねてきた交流が着実に実を結んでいることを実感し、今後も交流をさらに推進していくことを互いに確認した。

この長春市内には、漫画、アニメーション等について専門的に学ぶことができる吉林動画学院がある。２０００年に開学してから１３年間、多くの学生を育成してきたこの学院は、現在、さらなるキャンパスの整備を行っており、いっそうの教育内容の充実を図っている。同学院で作成されたアニメーションや４D動画、学生がデザインしたホームページ等を視聴したが、非常にレベルが高いものであった。学院内に設けられたスペースに、多くのトロフィーが並んでいたことも、そのことを示すものであろう。中国国内だけでなく、日本をはじめとした外国の漫画、アニメーションからも長所を学び、自分たちの技術

として習得するよう努めている姿勢がうかがえた。
今後、中国にとっても漫画やアニメーション、動画は重要な情報伝達ツールとして根付いていくように感じられた。「まんが王国とっとり」に取り組んでいる本県であるが、元来、国境を越えての理解が進みやすいものであることから、次代を担う若い世代たちの交流を盛んにすることで、相互の刺激になり、一層の「まんが王国」の発展、国際交流の進展につながるのではないかと感じた。

黒竜江省ハルビン市は、鳥取県議会訪問団として、初めて訪問した土地である。山形県は、平成２３年１０月、この地に日本の自治体として初めて事務所を開設し、経済交流の拡大、技術・学術交流等の促進の拠点としている。この事務所を訪れ調査を行った。
山形県ハルビン事務所の担当者は、人と人とのつながりを重んじる中国の商慣習を尊重しながら、日々、精力的に県内企業と中国企業のマッチング、そのフォロー作業を行っているとのことであった。観光関係については、日中関係の冷え込みの影響を受けていることは否定できないが、ハルビンから蔵王のスキー場に観光客を呼び込む努力を続けているとのことであった。このほかに、環境技術や医療についても独立行政法人国際協力機構（JICA）の事業を利用した山形県内での技術者の研修、県立病院への中国人医師の受け入れなど、人的交流を積極的に行っているとのことであった。
中国東北部は、高い経済成長率を維持しており、また、ハルビン市だけでも約１，０００万人の人口を抱え、巨大なマーケットとしての潜在力を有している地域である。北東アジアゲートウェイを目指す本県にとって、今後も重要な地域であり続けると考えられる。中国経済については、内販型のビジネスモデルへの変化、高齢化社会の到来、過熱する不動産投資に対する懸念など、正確な情勢分析と機敏な対応が求められる一方で、この地での経済活動には、信頼関係が特に重要であり、それを築くために一定の時間を要するという見解が今回の調査で得られたところである。新潟県や山形県のように海外事務所を設けている他県の例を研究したうえで、本県も遅れをとることの無いよう、体制の整備について検討を進める価値はあると考える。

今回の訪問を通じて、中国国内に蓄積されている技術は着実に進歩してきており、今後、大きな力となっていく可能性を秘めているように感じる。ただ、大気汚染に代表される環境問題が、中国社会にどのような影響を与えていくのか注視していく必要があると考える。
一方、安価で豊富な労働力を前提とした委託加工型の産業モデルは、すでに過去のものとなっており、今後このスタイルでの発展は望めないと考える。しかしながら、市場としての中国は大変魅力的であり、シルバー産業のように今後の中国の社会構造の変化によって成長が見込まれる分野もあることから、今後もわが国との経済的な結びつきは継続されていくものと感じられた。
そして、何よりも、これまで培ってきた日本と吉林省の絆の深さを強く感じた。地方自治体、地方政府で行われる交流は、互いの顔が見え、普段の相手の姿を感じることができる、親しみの湧く交流であり、大変意義深いものであると感じた。国家レベルではいくつかの問題を抱えてはいるが、今後とも吉林省をはじめとした交流を継続し、深めていくことの重要性を感じた。

4　日程表

月日	日　　　程		移　動	宿　泊
10月 27日 （日）	7:05	鳥取空港→羽田空港	NH292	
	7:15	米子空港→羽田空港	NH812	
	9:10	羽田空港→成田空港	連絡バス	
	13:30	成田空港→大連周水子国際空港（遼寧省大連市）	CA952	
		大連市内へ移動	借上バス	
	16:45	大連市内到着		大連市泊
28日 （月）	9:00	さんれいフーズ大連事務所　調査	借上バス	
		山陰合同銀行大連駐在員事務所　調査		
		ジェトロ大連事務所　調査		
	13:30	高速鉄道により吉林省長春市へ移動	G810	
	17:00	長春駅着、長春市内へ移動	吉林省公用車	
	17:50	吉林省人民代表大会表敬訪問		
		吉林省人民代表大会歓迎夕食会		長春市泊
29日 （火）	10:00	吉林動画学院　調査	吉林省公用車	
	13:00	長春市内視察		
	16:08	高速鉄道により黒竜江省ハルビン市へ移動	G317	
	17:10	ハルビン西駅着、ハルビン市内へ移動	借上バス	
	18:00	ハルビン市内到着		ハルビン市泊
30日 （水）	9:00	山形県ハルビン事務所　調査	借上バス	
	14:00	ハルビン空港→北京空港	CZ6658	北京市泊
31日 （木）	8:45	北京空港→羽田空港	CA181	
	15:25	羽田空港→米子空港	NH992	
	16:00	羽田空港→鳥取空港	NH297	

５　訪問先の概要

【平成２５年１０月２８日（月)】

（1）さんれいフーズ大連事務所

〔応対者〕牟 家升（ム　カショウ）首席代表

牟 家升首席代表から、さんれいフーズ大連事務所の事業概要を説明していいただき、意見交換を行った。山陰地方の企業が、進出した中国を拠点として北アメリカや東南アジアなど、広く世界に視野を広げた事業展開を行っていることが感じられた。主な内容は以下のとおり。

【主な内容】

- １９９１年に中国に進出、ズワイガニの委託加工の推進で業績を拡大してきた。
- 大連は水不足のため、２０００年以降は、旅順港にある地元企業２社に加工を依頼している。
- ズワイガニは、アラスカ、カナダから仕入れる。昨年度までは、ロシアからも入れていた。数は少ないが、中国国内向けのアピールとして、境港産のアジの加工も行っている。
- 人件費や原材料費の高騰、漁期の関係でカナダからの原料が安定供給されないのが悩み。２０１０年からは、人件費の高騰を受け、リスク回避のためインドネシアにも1，000 トン分の加工依頼をしている。
- 元々大連は生産拠点であったが、ここ３年くらいで、委託加工の形態から中国でモノを売る経営モデルに変化してきた。
- さんれいフーズとしては、技術の蓄積が進展してきていることから、中国で行う生産額を減らす予定はない。ただし、人件費の高騰等の問題があるので、新規の事業量は増やさず、現状維持とする方針。
- 世界の流れが、生産拠点を東南アジアにシフトしてきている。中国の企業は東南アジア向けの貿易で潤っている。日本向けに貿易することは各種規制があり敬遠されがちな傾向がある。
- 中国の離職率は高く、３年周期で辞めていくと言われている。勤務して技術を取得すれば辞めるといったイメージである。これには、工場勤務で一生働いても家が買えないといった背景もある。その結果として、工場勤務に見切りを付けて起業する人が多いのも事実である。
- このような状況であるから、中国での事業展開を考えるとき、社員に技術を修得させるような事業モデルでは不利であるように思う。マニュアルで処理できる業務（あるいは事業モデル）を展開させる方がよいのではないだろうか。

さんれいフーズ大連事務所オフィス

牟　首席代表から説明を受ける団員

訪問団の質問に答える 牟 首席代表

オフィスのある大連賓館前にて

（２）山陰合同銀行大連駐在員事務所

〔応対者〕植田　武司　所長

植田代表から、山陰合同銀行大連駐在員事務所の事業概要、及び中国東北部の経済概況やその見通しを説明していいただき、意見交換を行った。主な内容は以下のとおり。

【主な内容】

- 鳥取県の企業等、従来から取引のあるお客様が中国に進出する際の支援や、従来から取引のあるお客様に対して中国の企業等を紹介する支援を行っている。
- 日本の企業が中国側にモノを売りたい、ビジネスチャンスを紹介して欲しい等に加え、中国企業が日本に進出する場合もお手伝いする。
- 内陸にある吉林省長春市の発展を支えているのは、大連市の海運である。それほどに大連の存在というのは大きい。
- ここ大連でも、高層マンションが続々と建設されている。住居用は少なく、多くは投資目的のものである。“不動産バブル”を危惧する見解もある。しかしながら、不動産の購入についての規制が日本とは異なっていることを踏まえて判断していくことが必要と思う。

・　中国においても近い将来、高齢化社会の到来が予想される。今後はシルバー産業が伸びていくと考えられる。また、中国と日本の習慣の違いなどソフト面で解決すべき問題はあるものの、富裕層には、人間ドックを日本で受診したいという需要も少なくない。

山陰合同銀行大連事務所にて

植田首席代表から説明を受ける団員

（３）日本貿易振興機構（ジェトロ）大連事務所

〔応対者〕荒畑　稔　日本貿易振興機構大連事務所長

　荒畑所長から、ジェトロ大連事務所の事業概要、及び遼寧省を中心とした中国東北部の経済分析を説明していいただき、意見交換を行った。主な内容は以下のとおり。

【主な内容】

・　当事務所は遼寧省、吉林省、黒竜江省の東北３省を所管している。経済規模としては、中国全体のGDPのうち１０％を占める地域である。
・　主要な業務としては輸出促進（市場開拓）、対日投資促進、在外日系企業支援等日本企業のビジネス活動支援を目的とした、東北地区の市場、産業等の経済情報、ビジネス情報の提供を行っている。
・　大連には６，０００人の日本人、１，２００社の日本企業がある。輸出の４割は日本向けであり、金額にして約１５，０００ドルである。これは台湾よりも少し低いが、ロシアとほぼ同じ規模である。
・　近年の傾向として、中国で生産して日本に輸出する“加工貿易”から“内販型貿易”に変化している。このような現象が起きている主な理由には、円安が日本企業にとって逆風となっていることが挙げられる。
・　また、賃金が上昇しており、最低賃金で人を雇うことはできなくなっており、この点からも委託加工は難しくなっている。
・　ジェトロとしては、「日本企業が頑張ると地元（大連）が発展する」という成功モデルを示したいと考えている。バイヤーの紹介だけでなく、地方自治体、地銀関

係者をメンバーとした市場開拓研究会を通して情報交換を行っている。また、企業向けに弁護士、会計士の紹介、税務、労務等のセミナーを開催する等の支援を行っている。

- ジェトロとしては、社会消費が上昇しないと経済が大きくならないと考えている。現在、盛んに不動産取引が行われているが、これは投資がほとんどであり、そういう意味では、足を引っ張っているのではないかと感じている。
- 中国では現在、核家族化、高齢化が進展しており、シルバービジネスが注目されてくると予測している。しかし、同時にこれは将来の中国にとって問題となってくる点でもあるだろう。

意見交換する団員

ジェトロ大連事務所にて

高層ビルが建ち並ぶ大連市の様子

（4）吉林省人民代表大会

〔応対者〕李　龍熙　吉林省人民代表大会副主任
李　洪剛　　同　　副秘書長
韓　腥利　　同　　主任委員
鄧　佛　吉林省外字弁公室　副主任
雲　憲輝　　同　　亜州処担当

本県と友好交流提携を結んでいる吉林省の人民代表大会へ表敬訪問を行った。

先方からノーネクタイでの会見の申し出があるなど、終始和やかな雰囲気で懇談が進み、吉林省人民代表大会を代表して、李副主任から小谷団長へ「五牛図」の掛軸が贈られ、訪問団を代表して小谷団長から麒麟獅子の置物を贈呈した。

懇談の後は、吉林省人民代表大会主催の夕食会に招待された。夕食会では、李副主任から、鳥取の豊かな自然がとても印象に残っていることや、吉林省の自動車産業、日本の地酒についてなど幅広い分野に話題が及んだ。今後も交流を一層推進していくことを確認することができた。

李副主任と小谷団長の挨拶は、次のとおり。

【李　副主任　挨拶】

小谷先生を団長とする訪問団の皆様、ようこそお越しくださいました。吉林省人民代表大会を代表して心より歓迎の意を表します。鳥取県は、吉林省にとって初めての外国の交流地域であったと記憶しています。私が思いますに、鳥取県と最初に交流関係を締結した理由としては、かなり以前から経済、文化、科学技術等幅広い交流を行ってきたということがあったのではないかと思います。そして、日本に行くたびに中国出身の国際交流員に会うことができることなど、人的交流も盛んに行っているということもあると思います。

とても親しみを感じている鳥取県からのお客様にお会いでき、とても嬉しく思います。昨年の７月に鳥取県にお邪魔したばかりです。平井知事に対応していただき、知事公邸で食事をご一緒させていただきました。鳥取市の竹内功市長ともお会いして、今年９月に竹内市長に吉林省延辺自治州にきていただいて、延辺自治州と鳥取市も友好交流に関する覚書も調印しました。ですから、吉林省と鳥取県では、省と県のレベルだけでなく、市町村と州のレベルでも交流を行っています。

地図を見ればお分かりのように吉林省は内陸の省ですが、日本海に近い、国境線に近い地域です。ですから、吉林省は環日本海地域の地方政府との交流が盛んで、各地方政府とは経済貿易分野などでの協力を行って参りました。

吉林省の面積は、約18万7千平方キロであり、人口は約2700万人です。吉林省の産業をご紹介しますと、まずは自動車産業です。二番目は軌道車両の加工産業です。三番目は石油化学産業、四番目は、吉林省は穀物を沢山作っていますので、中国において有名な穀物の生産拠点であり、食品加工業も盛んです。また、観光業も盛んです。観光地として有名な長白山も吉林省にあります。鳥取県も観光業が盛んだと記憶していますが、鳥取砂丘がとても印象に残っています。

吉林省の人民代表大会についてですが、人民代表大会の常設委員会は、人民代表大会の日常の業務に対応しています。今、委員は63名です。人民代表大会の権限、業務は、大きく４つあります。一つは立法権、二つ目は指揮監督権、三つ目は重大事項決定権、四つ目は人事の任免権です。

中国と日本とは、政治制度は違いますが、経済を発展させて市民の生活レベルを改善するということについては、一致していると思います。だから鳥取県議会と吉林省人民代表大会は多くの面で交流が可能であり、吉林省人民代表大会常務委員会

として喜んで鳥取県議会と交流を拡大しようと思っています。そして、この場をお借りして鳥取県の皆様に感謝申し上げたいのは、毎年吉林省で開催している北東アジア博覧会にご出席頂いて、多くの県内企業にご出展いただいて、本当に感謝しております。ありがとうございます。

【小谷　団長　挨拶】

鳥取県議会中国吉林省訪問団を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日、李　龍熙副主任をはじめご列席いただきました４名の皆様方におかれましては、大変お忙しい中、我々の訪問に際し、このように盛大に歓迎していただき、誠にありがとうございます。

わが鳥取県におきましては環日本海交流を重要な施策の一つと位置づけ、中国をはじめ北東アジア地域の国々と、様々な分野で交流に積極的に取り組んでいるところでございます。

とくに貴省との交流につきましては、１９９４年、１９年前に「友好交流に関する覚書」を締結して以来、経済、教育、文化など多数にわたる分野で交流を深めており、吉林省と本県の発展に大きく貢献しているところであります。

これもひとえに、吉林省人民代表大会並びに人民政府の皆様を始め関係各位のご尽力の賜物と感謝申し上げます。最近の我が鳥取県の動きですが、人的交流をさらに活発化させるべく取り組んでおります。とくに昨年度は上海との間にチャーター便を運航させるなど中国からのお客様を積極的にお迎えしています。このように北東アジアゲートウェイとして、また環日本海を中心とした海外進出に向けた整備を着実に進めている状況であります。

このたび、我々鳥取県議会訪問団としましては、限られた時間ではありますが、貴省の文化・経済の状況などを視察させていただき、今後の貴省と本県との交流の発展につなげたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

終わりに、今回の訪問に当たり、関係者の方々に御高配を賜りましたことに厚くお礼申し上げますとともに吉林省の益々のご繁栄と、先生方、ご列席の皆様の御健勝を心から祈念いたしまして、私の挨拶といたします。

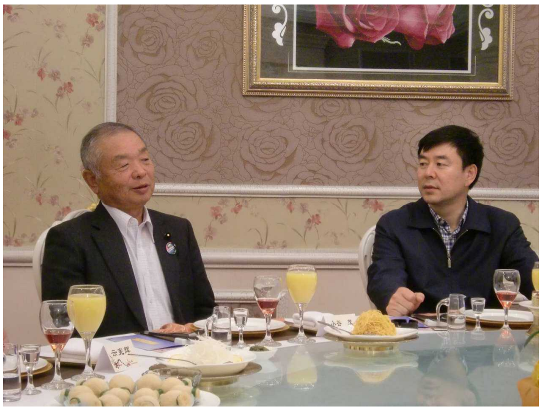
小谷団長と　李　副主任

表敬訪問の様子

「五牛図」の贈呈を受ける小谷団長

中国訪問団と吉林省人民代表大会

吉林省主催の歓迎夕食会



懇談する小谷団長と李 副主任

【平成２５年１０月２９日（火）】

（１）吉林動画学院

〔応対者〕王　英　副院長

王瑛　副院長から学院の現状の紹介と今後の整備計画の説明を受け、学院で製作された４D 動画を視聴。その後、学院内の博物館に展示してある動画、漫画、アニメ、ゲーム機器に関する展示資料について、学院の広報担当者の説明を受けながら視察した。展示資料としてファミリーコンピュータ、プレイステーションなど日本メーカーのゲーム機が展示されていた。

視察の様子は、学院の広報担当により終始ビデオ撮影が行われており、小谷団長以下３名の議員は訪問者の芳名録へ署名を依頼されるなど、今回の訪問は、学院にとって大きな出来事として受け止められていた様子であった。

主な内容は以下のとおり。

【主な説明内容】

- 中国における動画産業の拠点として１３年間活動してきた。
- 2015 年を目途にキャンパスの整備を行っているところである。
- 中国絵画の特色を取り入れたアニメも手がけているほか、パソコンソフトも製作

していているし、アナウンサー養成の学科、デザイン学科もある。当学院の学生が作成した４Ｄ動画があるので、是非ご覧いただきたい。

・ 学院には、博物館があり内容は中国でナンバーワンであると自負している。

訪問団と王 副院長

説明を受ける団員

吉林動画学院の全体図

資料展示してある日本メーカーのゲーム機

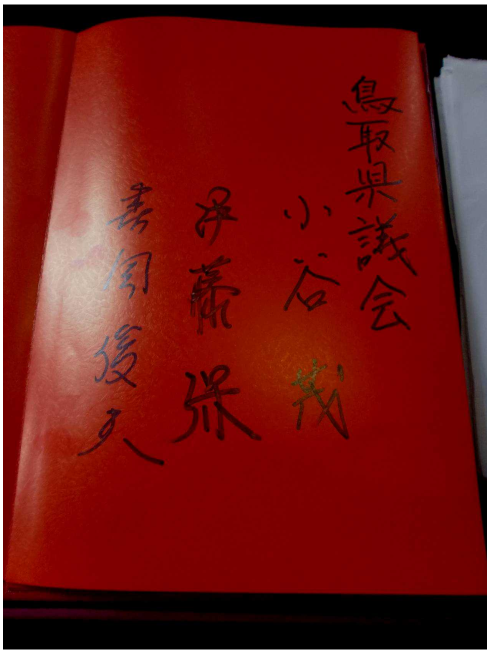
中国の特徴を活かした作品

アニメーションとジオラマ作品の共同展示

学院内では日本の漫画家も紹介されている

学院生の作成した動画の数々

嘉賓題名簿（訪問者芳名録）に署名する小谷団長



鳥取県議会中国訪問団の署名

（２）欧亜商都（百貨店）

長春市内の百貨店　欧亜商都の見学を行った。当該店舗は、日本（福岡市）の百貨店に学んで作られた店舗であるとのことであり、中流よりも少し上の層を主な客層としている。

店舗前の歩道にも客の自動車が駐車されており、多くの客で賑わっている様子がうかがわれた。

商品価格は日本とほぼ同じであるように見受けられた。服飾、化粧品は外国ブランドの品物も多く並んでいた。食料品は、生鮮食品から地元産品の乾物、ケーキなどの菓子類まで幅広い品揃えであった。菓子類については日本でもみかける商品も取り扱われていた。

この店舗では、握り寿司が販売されていたが、日本にはない中国の食材をネタとしたものも見られた。現地のアレンジを受けながら、日本食が中国においても広まりつつあることを感じた。

なお、長春市内を移動中、銀行の前を通るたびに電光掲示板で高い利率を表示し、資金運用を促す広告が行われていた一方、市内の多くの自動車に黄砂状のホコリが積もっている状況を見かけたが、現在の中国東北部の様子を表しているように感じられた。

長春市内

混雑する街路の様子

長春市内の銀行

高い利率を表示する広告

欧亜商都

陳列されている商品の様子

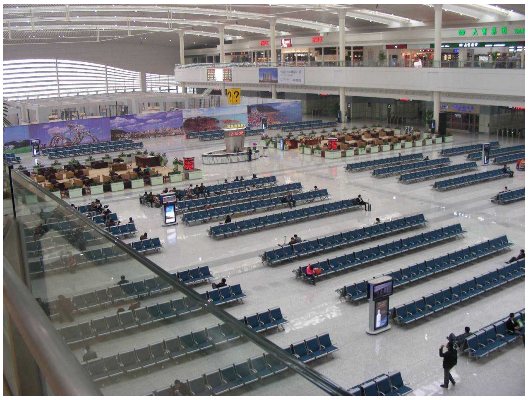
（3）中国の高速鉄道について

戦後のわが国の経済発展において、新幹線の整備が大きな役割を果たしたように、中国内陸部から沿岸までを結ぶ高速鉄道網の整備は、今後の中国東北部の発展に大きく貢献することが予想される。今回の鳥取県議会中国訪問団は、遼寧省大連市から黒竜江省ハルビン市までの移動手段として、昨年１２月に開通した当該高速鉄道の「和諧号」を利用した。

ドイツの技術を用いて整備された和諧号は、スピードこそ日本の新幹線より控えめに感じられたが、快適な乗り心地であり、見渡す限りの大平原を正確なダイヤで進行していった。

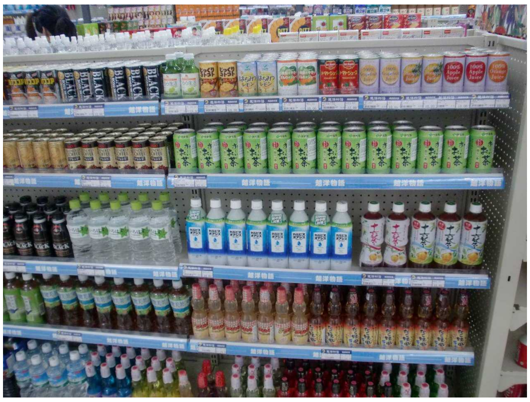
印象に残ったのは、高速鉄道の各駅の大きさである。大連北駅、長春西駅、ハルビン駅を利用したが、いずれの駅も非常に大規模であった。これらの駅周辺はまだまだ開発中であり、駅舎も今後も経済発展が続くことを前提とした規模で建設されたものであるように感じられた。

和諧号



大連北駅の様子

大連北駅内の売店



売店に並ぶ日本メーカーの飲料水

開発途中の長春西駅周辺の様子

ハルビン駅の様子

【平成２５年１０月３０日（水）】

（1）山形県ハルビン事務所

〔応対者〕信坂　正浩　山形県ハルビン事務所長

信坂 事務所長から、事業概要を説明していいただき、本県と同じく日本海側に位置する山形県が中国に拠点を設け、行っている活動について質問、意見交換を行った。主な内容は以下のとおり。

【主な内容】

- 山形県と黒竜江省は、1993 年に友好提携を行ってきたことが、ハルビン事務所を開設の大きな背景となっている。
- 事務所員は５名で、所長、職員、山形県内の銀行から各１名、現地雇用２名という体制である。中国では現地との人脈作りが重要と感じている。
- 山形県内企業向けには、ハルビンで毎年実施される商談会に県内企業に参加してもらい、その後のフォローアップや、中国企業のリストアップを行って県内企業とのマッチングを図る業務を行っている。
- 企業誘致は、すぐに実を結ぶものではないと実感している。半年から１年単位の時間が必要である。
- 観光面では、黒竜江省で開催される観光展に参加するなど、ハルビン市のスキーヤーを蔵王スキー場に呼び込む取組を行っている。ただ、日中関係が良好とは言えない状況なので、観光面では厳しい状況が続いているのは事実である。
- また、山形県では、医療面でも山形県の県立病院に黒竜江省の医師を受け入れたり、環境分野ではＪＩＣＡ（独立行政法人国際協力機構）の事業を活用して黒竜江省の関係者が山形県で研修し、併せて山形県の研究者が中国で指導を行う取組も行っている。

ホテルの窓から臨むハルビン市内

ハルビン市内の様子

訪問団に説明する信坂ハルビン事務所長

説明を受ける訪問団員